

# 令和2年度学校自己評価システムシート (県立庄和高等学校)

目指す学校像	国際社会に目を向け、地域に貢献し、社会で活躍できる人材を育成する学校
--------	------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>主体的な学びにより、学習習慣を根付かせ、基礎学力の確実な定着を図り、学力向上に取り組ませる。</li> <li>組織的計画的なキャリア教育により、目標の実現に向け努力を継続させる力を身に付け、行きたい進路の実現に挑戦させる。</li> <li>活力ある学校生活により、責任感、社会性、主体性、協調性を涵養し、心身の健やかな成長を図り、目標を達成する経験を積ませる。</li> <li>効果的に地域・保護者と連携し、協働をすすめながら、各種教育活動に取り組む。</li> </ol>
------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 生徒 事務局(教職員)	名 名 名
-----	-------------------------	-------------

学 校 自 己 評 価							学 校 関 係 者 評 価	
年 度 目 標					年 度 評 価 ( 月 日 現 在 )		実 施 日 平 成 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	AL的授業やICT活用、知識構成型ジグソー法など授業改善に取り組んでいるが、目に見える生徒の学力向上には至っていない。授業中に授業内容を理解している生徒の割合は75%であり、残り25%は時間内に理解できていない。個に応じたきめ細やかな指導の充実が更に求められる。	・授業中に授業内容が理解できた生徒の割合を向上させる。 ・生徒の家庭学習時間を増加させる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>週末課題を全校をあげて取り組み、生徒の学習習慣の定着を図る。</li> <li>ICTを更に活用した指導法の工夫改善に取り組む</li> <li>授業公開週間の実施など教員が切磋琢磨できる環境を整理して、教科指導力の一層の向上を図る。</li> <li>学習内容指導表を更に生かして生徒の学習達成目標を明確に示し、生徒自らが進路に向けた学びの地図を描けるように指導する。</li> <li>6月の3者面談以外にも必要に応じて適時生徒との個別面談を実施して生徒一人一人の学習到達度を把握し、個に応じた指導・支援を実施する。</li> <li>朝学習の効果的な在り方についてさらに研究を深める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>週末課題を生徒に課し、学習習慣が定着したか。</li> <li>ICTを活用した授業を70%以上の教員が実践したか。</li> <li>授業公開週間を年2回実施し教員全員が授業公開、参観、相互評価を行えたか。</li> <li>学習指導内容表を年度の授業開始時までにまとめ、生徒に提示できたか。</li> <li>個別面談を適宜実施し、生徒の学習到達度を把握できたか。</li> <li>朝学習が浸透し、個に対応した効果的な学習となっているか。</li> </ol>				
2	生徒の進路満足度は高いが更に高みに挑戦する意欲が薄い。「入れる」進路先から「入りたい」進路先へと生徒の進路決定において、生徒および教職員も更に高い意識を持つ必要がある。国際交流事業は大きな成果を上げてきているが真の意味での交流に言語能力が必須である。英語での生徒同士の交流の場を多く求めたい。	・生徒の進路選択に対する意識を改善する。 ・生徒の満足度の高い進路選択を達成する。	<ol style="list-style-type: none"> <li>1年次の早い時期から系統的進路指導を展開し、生徒の進路意識を高める。</li> <li>就職希望者への面接指導、進学希望者への進学補習、公務員志望者への対策講座等、個に応じた指導を早い時期から展開し進路決定率の維持向上を図る。</li> <li>更に魅力ある就職先ならびに進学先の新たな開拓に努める。</li> <li>生徒の英語力を底上げし、姉妹校である台湾やオーストラリアの学生と英語を使った交流ができる力を育み、身に付いた能力や興味関心を生徒の進路選択へも反映させる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>各学年で系統立てて進路指導を実践し、生徒の進路意識の醸成が図れたか。</li> <li>進路決定率を96%以上にできたか。</li> <li>生徒にとって魅力ある進路先を開拓できたか。</li> <li>姉妹校の学生と英語を使った交流ができる程度の英語力が身についたか。</li> </ol>				
3	主体性や協調性を発揮して活躍している生徒は生徒会や特定の部活動、ボランティア有志等に限定されている。多くの生徒が主体的に活躍できる仕組みが求められる。地域と連携した探究活動を展開しているが活動時間の確保が難しく、生徒に十分な時間を与えられていない。部活動では多くの生徒が直向きに取り組む、加入率も低くはないが、取り敢えず入部しているというケースも見受けられる。	・主体的、協調的に部活動や学校行事、ボランティア活動や探究活動に取り組む生徒の割合を向上させる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>現在実施している多くの地域連携の取組や学校行事にさらに多くの生徒が企画運営できる機会を設ける。</li> <li>各学年の担任が具体的なクラス目標を明示して日々働きかけ指導することで、生徒に責任感や社会性、主体性、協調性を育む。</li> <li>生徒に長期休業期間や週末等を利用した調査など、探究活動を計画させる上で学習時間の確保に努める。</li> <li>部活動の転部も可能であるが、時期によって受け入れが不可能な場合もある。無理がなく効果的な転部の在り方を検討し、部活動未加入生徒を減少させる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒が主体的で積極的に運営に関わる機会が設けられたか。</li> <li>生徒が責任感を持って学校生活を送り、主体的、積極的に行事等に参加できたか。</li> <li>学校での学習時間を確保するため、学校外での活動を生徒に計画させ実行できたか。</li> <li>転部の在り方を検討することができたか。また、部活動未加入生徒が減少したか。</li> </ol>				
4	保護者の本校への訪問機会が多いとは言えない。生徒経由での通知が保護者の元に届きにくいことも原因であり、周知を徹底してPTA活動の活性化につなげる必要がある。また、地域と連携した探究活動と全校での成果発表会は保護者に周知されておらず、保護者の学校訪問の機会を逸している。	・保護者の来校者数を増加させPTA活動を活性化させる。 ・地域との協働を更に充実させる。	<ol style="list-style-type: none"> <li>メールシステムと併用して「生徒用サイト」「保護者用サイト」を用意して対象を絞った情報を発信する。また、1年間の学習成果の発表会である「総合的な探究の日」を地域や保護者にも公開する等の工夫で多くの保護者を学校に招き入れ活性化を図る。</li> <li>PTA役員を増員し会合や行事への、役員・教職員の参加を促しながら自由に意見交換ができる雰囲気醸成の中で、やり甲斐の感じられる主体的なPTA活動を促進する。</li> <li>春日部探究SDGsクラブ(春日部市、民間企業、学校等)や、かずかべ未来研究所等と連携した探究活動、春日部市国際交流協会や地元中学校と連携した国際交流事業、その他、地元ロータリークラブや庄和商工会等、さらなる地域連携で教育活動の充実に取り組む。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>対象を絞った情報発信ができたか。またホームページのアクセス件数が1日平均1,200件を超えたか。さらに、生徒の成果発表会を地域や保護者に公開できたか。</li> <li>PTA行事の参加人数が増加したか。また、保護者や教職員にとって充実したPTA活動となったか。</li> <li>地域と連携した活動をととして生徒の教育活動は充実したか。</li> </ol>				